

平成 30 年度 第 2 回香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

■日時 : 平成 30 年 11 月 22 日 (木) 13:30~15:30

■場所 : 天然色劇場 リハーサル室

■出席者 : 39 名 (策定委員 17 人 / 18 人 ・ 市職員 18 人 [市長含む] ・ 傍聴 4 人)

1. 開催目的

- ・ 分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に出席いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

2. 議 題

- ・ 各分野における平成 30 年度 (9 月末) の取組状況及び今後に向けた取組について
- ・ 各分野別部会からの報告について

3. 内 容

- ・ 担当課及び各部会長より報告を行った後、議論。

4. 意見・提案等

◇ 開 会

◇ 市長ご挨拶

◇ 委員長ご挨拶および進行

- ・ 今回の会は現状を把握し、それに対しご意見をいただきたい。
- ・ 来年度の予算計画に対応していく時期ですので、それを組み込めるようなご意見を限られた時間ではあるがいただきたい。
- ・ 高知大学では国と県から交付金 (地域大学地域産業創生交付金) の採択を受け、動いている。(5 年 : 42 億円 → 10 年間 73 億円の規模)
- ・ 内容は IOP (インターネット オブ プランツ) が導く、ネクスト次世型施設園芸農業への進化ということで、農業振興の次の 10、20 年をどう進化させていくか、あるいは、日本において、世界において、高知県の農業をどういう風に導いていくかということ、研究と生産流通、加工に至るまで継走的に研究し、現場に実勢していく内容である。
- ・ 農業分野では、4 定 (定時、定量、定品質、定価格) という言葉があるが、それをスーパー 4 定に導いていくということです。

- ・ 特に研究の分野では、全植物、(生産者)の代謝の全部を見える化する予定です。植物の代謝に基づく、分子の状態などを見える化することで、高付加価値な農産物の生産ができるようにしていこうと、県内の産学官、さらにはグローバルな視点でご指導いただきながら展開していきます。
- ・ 高知大学農林海洋科学部のキャンパスに新しい建物を建て、全国、また、グローバルな農業の拠点として構築を図る予定です。12月1日がスタートであり、県、高知工科大学、県立大学、県外ですと東京農業大学、九州大学などの研究者100名以上で結集し、進めていく予定です。
- ・ このようなプロジェクトが、身近にあることをみなさまにご注目いただき、すぐに自走できるものもあるので、見えそうなものは虎視眈々と狙っていただければと思う。

◇ 10月30日開催 香南市産業振興計画分野別部会合同会議の振り返り 【資料3】

- ・ 当日は3時間、たつぷりと議論を行った。文化庁が作った制度である「日本遺産」の考えに基づいて香南市版のストーリーを作ろうと称し、8班に分かれて、ご議論いただいた。
- ・ 最後は産みの苦しみを味わいながら、様々な議論を行い、ストーリーを考えていただいた。
- ・ 様々な班の発表を伺った中で見えたこととして、「5」というマジックナンバーが随所にみられたことが印象的であった。
- ・ 香南市は5町村が合併した市であり、文化的に1つにして行こうという流れであったが、市民のみなさまには「5町村」というものが、強く頭の中に残っている傾向にある。
- ・ 「5」を特徴として捉え、「5」をいつも組合せて「ストーリー」を描いていくという考え方もあるということを感じました。
- ・ この企画いただいた各ストーリーは、市民のみなさまの創造をクリエイティブにいった「財産」である。本日の会に対する意見に繋げていただく事も必要ですし、今後、合同部会で出たことが、各部会で反映をされたときに、他部会との連携が企画されていくことも考えられる。
- ・ 3時間議論した「香南市のエッセンス」を、今後の産業振興計画の策定の議論の場でぜひ反映していただきたい。
- ・ 中身に関しては、当日参加された方々も読み返し、忘れ去られないように、今後活用されるようお願いしたい。

◇ 議 事

- ・ 各分野における平成30年度(9月末)の取組状況及び今後に向けた取組について
- ・ 各分野別部会からの報告について

1. 各分野における平成30年度(9月末)の取組状況及び今後に向けた取組について 【資料5】

(※資料5の各部会全体の評価と総評、各評価の達成率の低い事業について重点的に説明)

- ①農業 →②林業 (農林課)
- ③水産業 →④商工業 →⑤観光 →⑥サイクリング (商工水産課)
- ⑦住宅 (建設課・住宅管財課・防災対策課・地域支援課)

2. 各部会からの報告 【資料6】

①農業 → ②林業 → ③水産業 → ④商業 → ⑤工業 → ⑥観光 → ⑦サイクリング

◇ 意見交換

(委員)

- ① 川谷刈谷の土地が動かないのであれば、林業を活かして製紙工業を建てるのはどうか。
⇒ 林業部会内でも間伐材から製紙へと繋げることは出来ないかという話が出ている。
現時点では話が出てきたところですので、まだ何の動きは無い。(農林課)
- ② 農業の担い手についてですが、研修時にさわりだけ、お試しの研修を構えるのはどうか。
⇒ 先だって「農作業体験モニター」という取り組みを行っている。
市内の方を対象として、みかん、にら、生姜で行った。アンケート結果については整理をし、お伝えしていく。(農林課)
- ③ 市街地に猪などが出るなどニュースになっている。市として出た場合の安全面への対策は。
⇒ 今週、野市内にて猪が出た経緯もある。防災無線を活用し、周知を行った。
その際、猟友会と職員で確認も行っている。
猪も含め、鳥獣などが居た場合や、被害などがある場合は農林課にご連絡をいただければ、猟友会などと連携し対応できる。また、その際の対応についても今後検討していく。
(農林課)
- ④ 自転車の普及を促すために、まずは市の職員が実践するとあるが、新庁舎の建設もある中で、駐輪場や通勤路に対する整備などは考えているか。
⇒ 新庁舎の建設はすでに進んでいる。自転車について駐輪場を構える形で進んでいる。
(住宅管財課)

(委員長)

自転車への取り組みについて、サイクリング専門委員会からも要望があったが、市民の方にいかにサイクリングの取り組みを浸透させていくか、生活に受け入れていくかが今後の課題であり目指すところであるということであったが、④の質問は非常にリンクしている。

例えば、市役所の職員の方が率先して自転車通勤に励み、浸透させていくことが求められる。そこに、市役所の駐輪場が、他の市町村と突出した創意工夫がされていたとするならば、完全につながっていく。

文脈的に考えていただき、さらに工夫の余地が無いかという事を常に考えていただき、前向きに検討をしていただきたい。もちろん、設計済な部分もあると思いますが、まずは「会から始めよ」という言葉があるくらいですから、会から始めて、職員の意識を変えるところから始めていくべきである。職員の方がどれくらい自転車にのっているかの調査も行ってみると容易と思います。

環境制御技術導入普及事業が終わってしまうことを懸念されているという事がありました、今後どのような動きなのか。

⇒ 状況については確認できていないが、国の事業の部分が終了するという事だと考える。
県として今後どうなっていくかについて確認はするが、継続を求めていく（高知県）

（委員）

① 香南市は「ふるさと納税」が昨年度飛躍的に伸び、今年度も伸びている。どのような取り組みを実施し成果につながっているのか。

⇒ H28 年度は約 4,200 万円、H29 年度は 1 億 8,000 万円と伸び、今年度は 3 億円を目指している。取り組みとしては、関連サイトを増やしたことと、母の日や父の日、クリスマスなどのイベントにあわせた商品作りに力を入れた。

また、香南市は当初より返礼率を約 3 割としており、他市町村と比べると低めの返礼率とされていたが、H29 年 11 月より返礼率の基準がその 3 割に合わせられたことから、他市町村と同じ土俵となった経緯があり、検索される機会が増加したことから、成果につながっている。（総務課）

② よさこい祭りの香南市の子供チームに関するクラウドファンディングの取り組みも行うなど、香南市の取り組みは注目をさせていただいていた。今後も取り組みについて頑張っていたきたい。

（委員長）

大きいな伸びしろを活かすために、マーケティングの観点からお話しすると、返礼率も差がない中で、正当な競争が始まっているので、勝ち残っていくためにはどうすればいいかを考えるところにきている。すでに詳細な分析を始めているところもあります。

サイトの中身で、どういうカテゴリーで検索されているか、ふるさと納税をする側の動きから今後を見越す必要がある。

マーケティングの戦略を考える時期に来ている。何を返礼品にしていくかというプロダクトアウトだけではもう勝てない時期に来ている。

香南市の強豪先はどこなのかなどを調べ、そこに勝つにはということを考える必要があり、そこにストーリーという考えを入れていくことが求められていく。

（委員）

ふるさと納税に関しては入り口として、ふるなび、楽天、ふるさとチョイスを活用している。

これまで、税抜き金額の 3 割が基本だったが、今後税込の 3 割となる動きなどがあることから、講師による研修を受けたりしながら、対応に向けて動いている。

また、香南市に納税するだけでなく、空港が近いなどに利便性があることから、香南市に来ていただくための取り組みを続けている。10 月に行われた塩の道トレイルランでは初めて、ご寄付

による参加者もいた。

来年度に向けて、県・市も自然体験型キャンペーンに力を入れていくことから、そういったことをふまえた、香南市に来ていただける体験等の要素もふまえた商品展開や、新たに香南市の特産品を掘り起こすような商品の組み合わせや提案を行っていきたいと考えている。

(委員長)

お話のとおり、情報を繋げていかないといけない。カスタマー・リレーション・マーケティング（マネージメント）という考え方だと思います。

(委員)

お菓子販売を行っている身として、ふるさと納税（5,000円）納税に対する返礼品が増加していると感じている。以前、仕事などの関係から返礼品を受け取れなかったため、商品にカビが生えてしまったケースがあったが、迅速丁寧に対応を行った事例があったのでそのような事でも増加しているのではないかと感じている。

(委員長)

物として伝わるのではなく、心として繋がっていくことはよいこと。

自転車についてだが、サイクリング専門委員会の報告書にもボリュームを感じられる。

(委員)

三宝山のスカイラインが某車メーカーのCMで流れている。動画には「三宝山スカイライン」と表記もされている。それを見たら、登りたいという方もいるのではないかと。ある程度きついても思うが、頂上を越えたら、龍河洞に向けて良い高低差があると思うので、狙い目だと思う。

(委員)

四国の路として、海岸線と山の中というのが主流だが、「パノラマ」を楽しめるところが少ない。三宝山は空港からも近いことから、売りに出来るのではないかと感じている。

(委員長)

龍馬空港から近いと言うことはアクセスが良いということ。

集客を考えるとときには、飛行機を降りてすぐサイクリングに移れる流れが必要。

レンタサイクルが空港にあっても良いし、自転車を荷物として運べ、空港で組み立てられ、すぐにパノラマを体感できる環境に移れるような取組が必要。

飛行機を降りてどれくらいの時間で自転車に移行できるか、または、そのパノラマまでどれくらいの時間で行けるのかを整理することで、「世界一〇〇な場所」というようなものが見えてくるかもしれない。何を売りにするかが大切で、地域の中で、「作業仮説」と言いますが、「もしかしたらこうなんじゃないか」と思いながら、実際にチャレンジをしてみることが求められる。

そのためには、香南市、香南市民として、「自転車への誇り」と「生活に浸透していく」「自転車が、常に市民の生活に密着している」というものの程度を高めて行かなくてはならない。

今の話は、まさに「ストーリー的に繋いでいく」ということであり、サイクリングロードとして、パノラマとして、ものすごいヒントが隠されていると感じる。

なんらかの形で議論を深めていき、次のどのようなアクションを具体的に検討していくのかを市民のみなさんで議論いただきたい。

その後、予算的にそこに、一定の措置をして、具体的なアクションを動かしていく必要がある。

(委員)

県外で研修に伺った際、観光を絡めたサイクリングの大会を運営されている方々から話を伺った。香南市内のサイクリングの周遊マップ、「ツール・ド・こうなん」という冊子も作成しており、推進しているが、先ほど話しにあったが、空港からも近いことに加え、スカイラインから龍河洞へと3市を回るようなロングライドに、3市の各グルメを堪能できるサイクルエイド・サイクルステーションを構えられると、アクセスの良さ、パノラマ、観光、食のPRに繋げることができると考える。

加えて、県等の取組による統一されたブルーラインが整備されていると、よりサイクリストに来ていただきやすくなり、市内の運転手にも理解が得られやすいと考える。

また、昨年度、三宝山スカイラインから龍河洞へ抜ける「三宝山ドラゴンヒルクライム」というイベントを検討していた時期もある。様々な方に、サイクリングに対する意見をお伺いし、実施に向けて取り組んでいきたい。

(委員長)

是非、そのような取組やヤ・シィパークのグランドデザインの話などを含めて、先ほど食を絡めるなどの話もあったが、全体的に「線から面」に展開していただければ、観光要素に絡めてストーリーが出来ていく。

今後、このような会で、「合同部会を毎月行うのはどうか」というような前向きな提案が出るような流れになれば、具体的なアイデアが議論できるし、また、計画に落とし込んでいけると感じる。

時間の都合により、今回はここまでとなるが、本日いただいた意見を市として、反映できるところは反映をお願いしたい。 以上で司会を事務局にお返しする。

◇ 閉 会 副市長挨拶

以 上